

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：きずな

報告者：林 高正

実施場所：岡山県高梁市 川上診療所	実施日：平成30年4月12日～13日
----------------------	--------------------

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など）

庄原版 包括ケアシステムの導入を数年前から提言しているが、西城病院が取り組んでいる包括ケアシステムを超えるものではなく、掛け声だけの、「包括ケアシステム」が動いているという錯覚に陥っているのではないかと私は考えます。

そこで、昨年11月の清渓セミナーで講演を拝聴した、高梁市川上診療所の菅原医師を訪ね、改めて、「川上方式」の現場を視察研修させていただきました。

■参考とすべき事項

昨年の講演では現場が想像できなかったのですが、実際に川上診療所を核とした川上医療センターを見させて頂き、納得できました。20年前から医療センターが稼働していたことには驚きましたが、「地域に住み続ける」ということに徹底的に拘った取組と言えます。

言うなれば、医療と福祉が住民医療であり住民福祉であり、融合しています。訪問診療（歯科医の訪問診療もあり）や訪問介護もありますが、緩和ケアも充実していました。診療所の2階は病床だったそうですが、今は高齢者住宅が9室整備されており、驚きは室料や食事代等全て含んで利用料は7万円だそうです。診療所の隣には介護老人保健施設が整備されておりますが、驚きは、3階にはアルツハイマー型認知症の方々だけの入所施設を整備されていることでした。大雑把に言うと、1階が通常のデイサービスを併設した介護サービス拠点、2階が老人ホーム、4階が展望入浴風呂となっています。

書けば切りがないほどの施策を実施されており、実際に視察に行かなければ理解できないと思いますので、興味がある方は連絡してご相談下さい。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきかなど）

後付けであっても川上医療センターまがいは作れると思います。先ずは、真似ることからスタートです。菅原医師が、「コンパクトタウン」という言葉を良く使われましたが、医療・介護・住まいの複合施設を中心としたまちづくりです。複合施設は多機能化であり医療福祉供給体制の包括化で、運営は住民が主体的に取り組むというものです。医療と福祉の垣根を取り払うための在宅医療コーディネーターという役割の人が存在するのですが、パイプ役とも言えますが、凄く重要であると思いました。

何せ、最先端を行かれている川上診療所ですから、仕組みを理解するにはもう少し時間がかかりそうです。制度だけをつくれば終わりではなく、そこで働く人たちの意識を高める必要性も話されました、その通りと感心しました。

平成30年4月19日

調査・研修報告書(会派個人)

会派きずな

報告者 德永泰臣

実施場所：岡山県高梁市川上診療所	実施日：平成30年4月12～13日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など）</p> <p>○高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療介護の体制を整える「地域包括ケアシステム」の推進等についての研修。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>○川上診療所所長の菅原医師は、勤務されていた岡山大学を退職され、川上診療所に転身。医師による診察の事前と事後に、看護師が患者から丁寧に話を聞き、様子を把握する独自の方式を確立された。</p> <p>○2000年には、診療所の敷地内に老人保健施設ひだまり苑を開設し、医療・介護の一体的なサービスを可能にした。往診や訪問診療も積極的に行われている。</p> <p>○診療所の2階には高齢者住宅も併設され、7万円という低価格での入居が可能となり、看取りまで川上町内で行われる仕組みも構築されている。</p> <p>○川上診療所は独自の地域包括ケアシステムを構築、中山間地域での医療の発展、向上に尽くされ、地域住民と医療従事者の間に「顔の見える」関係を築き住民からの信頼は厚い。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきかなど）</p> <p>○お年寄りが、誇りを失わず、安心して地域に住み続けられるケアを目指し、人口減少の今、その対策を行政は考えていかなければいけない。将来を見据える事が重要と考える。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： きずな

報告者： 五島 誠

実施場所：岡山県高梁市川上診療所	実施日：2018年4月12日・13日
------------------	--------------------

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

- ・診療所を中心としたまちづくり
- ・地域包括ケア＋コンパクトタウン

■参考とすべき事項

- ・地域包括ケアシステムとはすべての地域住民の人生に継続的に関わる医療・ケアという前提の下、住民生活を支える医療、介護及び住宅の複合施設としてまちづくりの中心に据えられている。限られた専門職を効率的に運用する事や、医療の御用聞き、高度な総合診療所として病診連携などをすすめていた。
- ・在宅医療も選べるように独居、高齢者世帯に対する支援体制も充実しておられ、人権としての緩和ケアも推し進め、がん患者 91 名の内 70 名が在宅などで終末期を過ごされた。
- ・まちづくり、地域づくりの場としての役割もあり、住民が主体的な担いをする事にも一役買っている。そこではヒントを提供し能動的市民を創ることを行っている。その中で、診療所の 2 階部分に、地元住民の N P O 法人が運営する高齢者住宅を空き施設活用を行っている。また、併設の老健施設での看取りにも力を入れていらっしゃる。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

- ・今求められる人生の最終段階の療養場所は、それぞれの人生観、価値観を尊重して決定されるべきもので、病院でも施設でも在宅でも「選ぶ事」が出来る事が大切であり、在宅療養をしっかり支える仕組みも地域には必要である。人々の心の幸せにとって重要な要因の一つとして、人と人との関係性、コミュニティが挙げられる。ますます増えていくであろう認知症を持つがん患者をどこで診ていくのか。地域での議論も必要であるし、人権としての緩和ケアもますます求められるところである。
- ・川上診療所と同じ事を庄原市に丸々当てはめる事は出来ないが、医療・介護の複合施設などは近接した地域にもある。川上診療所は、限られた専門職を効率的に運用していく事や、住民主体の拠点づくりなど参考とすべきところが沢山ある施設であると思う。是非とも参考、検討いただきたい。
- ・庄原市にも比較的このような日本でもモデルになるような優れたところがあるが、行政職員のみならず会議のメンバーや住民組織の方と一緒に研修し、本市に取り入れていくことを提言する。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：きずな

報告者：桂 藤 和夫

実施場所：高梁市川上医療センター（岡山県） （川上診療所）	実施日：平成 30 年 4 月 12 日（木）・13 日（金）
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など）</p> <p>※昨年 11 月、会派で「清溪セミナー（東京）」に参加した際、講師としてお見えになられた菅原英次先生（医学博士、川上医療センター施設長・川上診療所所長）から住民の満足度が 70% 以上もあるというデータとお話を聞き、地域や医療・介護の現場を視察することで、本市の地域包括ケアシステム構築に向けた取組みや医療・介護問題の参考になる事例があるのではないかと考え、視察に伺った。</p> <p>※川上町が標高 400m までの住みやすい地域で、小規模高齢化集落が岡山県トップであり、本市の現状に似ていると思い、地域課題の解決策のヒントがあるのではないかと考えた。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎地域包括ケアの本来の意味→全ての住民の人生に継続的にかかわる医療・ケアであること。 ◎川上町の地域包括ケアを①まちづくりのデザイン②川上方式③在宅医療④地域でのがん患者の看取り⑤在宅医療コーディネーターに分類され、「地域包括ケアシステム」と「コンパクトタウン」を一体化したまちづくりを目指されていたこと。 ◎「川上方式」（1）町の中心に医療・介護・住まいの複合施設があり、限られた専門職で効率的に運営され、診療所が高度な「総合診療医」として機能。さらにシステム化された「医療の御用聞き」等で住民満足度の向上が図られていたこと。（2）独居、高齢者世帯に対する支援体制が限られた医療リソースの有効活用により、地域の特性や診療実態に即した医療供給体制が出来ていたこと。 ◎高齢者住宅「絆かわくみ」は、驚くことに地域住民による NPO 法人が運営し、空き施設の利用、ボランティアの協力、地域住民の寄付等で 1 カ月…7 万円（食費込）で国民年金だけでも利用できる施設だったこと。町が眺められる展望風呂も良かった。 ◎施設内は特有の臭いがなく、職員、入所者の表情が明るく、ドアの色を認知症用に変えられていたこと。 <p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきかなど）</p> <p>☆本市の地域包括ケアについては様々な課題を抱えながら少しずつ進んでいると思うが、住む人が幸せに暮らせる地域をつくること・あるべき方向性（誇りを持ち、心豊かになど）を目指しながら現状の課題を解決すると共にリーダーシップの取れる職員等を養成し、ある程度異動させずに固定化し、具体的な目標計画を立てて進めていく必要があるのでないかと思います。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。